



校報

水糸者

No. 1252

元年度・第111号

〈学習発表会シリーズ・パート2〉

成長した姿で

感謝の気持ちを届けた学習発表会

今回の学習発表会でも、多くの方々からお褒めの言葉をいただきました。

今回、成功した理由の1つに、いくら忙しくなっても**「心のゆとり」**を失わずに、慌てずに取り組んでいた事があげられます。

「忙しい」(『忙』は心を失くすと書きます)と思う時や「慌ただしい」(『慌』は心が荒れると書きます)と感じる時には、良い発表はできないものです。本校のどの学年も、練習の時間とそれ以外の時間をきちんと区別し平常心を失くさず心を荒立てないで、この2週間の練習期間を頑張っていました。



練習で得た「自信」と「誇り」を胸に、表情豊かに演技をした子ども達。

2つ目の大きな理由は**「普段の学校生活の充実」**があげられます。わずか2週間の練習期間だけで取組み、仕上げようとすれば子どもにも指導者にも「徒労感」や「不信感」しか残らず、この行事で狙っている「充実感」や「達成感」が残らない、不毛な期間となる危険もあります。本校では「120%のための100% (本番で100%の力を発揮 させるためには、普段から120%の力で頑張る必要があるという意味)」という事も意識させながら、『日常の充実』を日頃から実践しています。



「猛練習?期間」にもかかわらず、休み時間には思いっきり遊び、勉強時にはしっかり学んでいる姿からも今年度の学習発表会も『成功』を確信していました。

3つ目の大きな理由は**「自らが考え、進んで練習する姿」**があげられます。

今回、どの学年も毎時間の練習のテーマを掲げ、その時間の到達目標やそこに到達するための道筋を示しながら練習を繰り返していました。

指導者が『教えたこと』を、子どもたち同士で話し合い、より良いものを『生み出していく』サイクルでの練習が続いていきました。

スポーツの世界でもそうですが、監督やコーチに言われた事だけをやっていては上達や成長が限られてきます。

いかに子ども達が進んで学び始めるかが上達の分岐点となります。

今回も種小っ子は正しく「守・破・離」の道筋を経て9日の演技となっていきました。



お客さんに伝える声や動作をデスカッションしている様子

守・破・離って？



能楽を完成させた「世阿弥」はその著書『風姿花伝』の中で、物事を学び始めてから、独り立ちしていくまでの段階を『守・破・離（しゅはり）』という言葉で表しています。

能や歌舞伎、剣道などの稽古事では、今でも最も大切にされている言葉、考え方です。

「守」とは、先生の教えを忠実に学び、基礎をつくる段階の事です。

「破」とは、先生の教えから発展し、自分独自の試み・発展をする段階の事です。

「離」とは、これまでの教えから離れ、新たな高みを構築したり、独自の道を確認させる最終段階の事です。

今年度の取組みでも、子どもの発達段階に応じた『守・破・離』を経ながら、心を耕す指導を繰り返していました。



指導者と子どもが一体となって「高さを求めて」試行錯誤しより良いものを追求し続けた結果が、今回の演技につながったのでした。ご来場の皆さんからの温かいたくさんのご声援に、重ねて御礼申し上げます。



当日の全ての教室の黒板には、今まで頑張ってきた子どもたちへ担任から感謝と今日の決意についてのメッセージがびっしりと書かれていました。



子ども達は登校後、黒板のメッセージをじっと読んでいました。

普段、大きな声で話すことが苦手な子も、大勢の前に立つことが苦手な子も、9日の「本番の舞台」では自分の殻を1つ破り、堂々と表現していました。「わからん時は 教えっこ。うれしい時は はしゃぎっこ。困った時は 助けっこ。」をしながらの2週間の練習で、子ども達の絆も根っこも幹も確実に成長していました。

この舞台で培った「自信」と「誇り」を胸に、2学期の残りの日々もしっかりと頑張っていく種小っ子です。

…小中学生の税に関する作品コンクール…

おめでとうございます！

【習字の部】

〈最優秀賞〉 中野 叶絵さん（5年）

〈優秀賞〉 北山 結衣さん（6年）

北山結衣さんは「久慈地区青色申告会 連合会会長賞」も兼ねての受賞となっています。

*久慈管内19校の150点の中からの受賞です。

この2名の作品は、11月18日から30日までの間、洋野町役場1階ロビーに展示されることとなっています。おめでとうございます。